

Poster (Subdiscipline) | 専門領域別：Management

■ 体育経営管理 ポスター発表

[06 経-ポ-01] 体力運動能力調査結果からみるコロナ禍の体育実技の運用と課題

○Takashi Kawano¹ (1.Touto Rehabilitation College)

[06 経-ポ-02] 実技教科におけるリモート授業の実態

リモート授業を実施した保健体育教員のインタビュー調査より

○Takuya Oshiro¹, Kotaro Nakayama¹ (1.St.Catherine university)

[06 経-ポ-03] Unraveling the Current Issues in and Defining the Status of University Athletics in Japan: A Scoping Study

○Haruka Kasahara¹, Shinzo Yamada¹, Randeep Rakwal¹, Hirokazu Matsuo¹ (1.University of Tsukuba)

[06 経-ポ-04] スポーツ参加者の種目に対する心理的なつながり

多次元的アプローチからの検討

○Hiroki Simozima¹ (1.Fukuoka university)

体育経営管理 ポスター発表

[06 経-ポ-01]体力運動能力調査結果からみるコロナ禍の体育実技の運用と課題

○Takashi Kawano¹ (1.Touto Rehabilitation College)

2020年初頭の新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により、対面授業からオンライン授業へと教育形態が変更された。体育実技科目の特性上、オンライン授業による教育活動においては、大幅な授業内容や教授方法等の変更が余儀なくされた。体育実技においては、毎年度の授業開始時に体力運動能力調査を実施し、当該年度の履修学生の体力運動能力を踏まえ、授業内容の設計や教授方法の工夫、傷害予防等に活用している。体力運動能力は、学年の進級とともに運動やスポーツ機会が減少することで、低下する傾向にある。2020年度の履修学生においては、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の発出等、日常生活に大きな活動制限を受けたこともあり、一層、運動やスポーツの機会が減少した。体育実技においては身体活動の機会を確保するために、通年に渡り毎週、5分程度の高強度インターバルトレーニングをオンライン授業内で実施した。これまでの授業に比べ、授業毎の身体活動量や負荷は低いものと推測されるため、体力運動能力は例年以上に低下していると考えられる。そこで2021年度の履修学生の体力運動能力について、2017年度と2019年度の体力運動能力調査結果と比較し、体力運動能力や運動・スポーツ実施状況等の実態について明らかにする。履修者は理学療法士を目指す学生であり、対象者の運動器リハビリテーションや健康増進の一翼を担うため、自身が健康であることが必要である。体育実技の科目到達目標は、運動やスポーツの有用性を理解し、生涯にわたり運動やスポーツに親しむ習慣を習得することである。新型コロナウイルス感染症下においても、体育実技の科目到達目標を達成することは不可欠であり、体力運動能力調査結果から体育実技の運用や課題について検討する。

体育経営管理 ポスター発表

[06 経-ポ-02]実技教科におけるリモート授業の実態

リモート授業を実施した保健体育教員のインタビュー調査より

○Takuya Oshiro¹, Kotaro Nakayama¹ (1.St.Catherine university)

新型コロナウイルスの感染拡大は世界的に大きな影響を与えているが、その影響は日本の教育界にも及んでいる。我が国で初めて緊急事態宣言が発出された2020年4月は、年度初めということもあり、教育現場では混乱が生じた。しかし、オンラインでのコミュニケーションツールを授業に取り入れようとする機運が現場の教員間の中で高まり、オンライン会議アプリを用いたリアルタイムでのリモート授業や無料動画投稿サイトやあらかじめ準備しておいたフォームに動画をアップロードし、それを学生や生徒が視聴、課題を提出するというオンデマンド型の授業を展開する教員が登場した。緊急事態宣言下に適応した授業形態の構築、教員のオリジナリティーあふれる動画投稿は、注目を浴びることとなり各種メディアに取り上げられた。しかし、その授業のほとんどは数学や国語といった座学による授業であり、保健体育のような実技を伴った授業については散見される程度であった。そのような中でも、実際にリモートで保健体育の実技授業を行う学校も存在した。そこで、本研究では実技科目を遠隔で行うという困難な状況にも関わらず、リモートで授業を実施した保健体育教員の動向を組織論の視点から明らかにする。そして、今後の新型コロナウイルス感染拡大により、保健体育の実技科目をリモート授業で開講せざるを得ない状況になった際に、多くの保健体育教員が迅速にリモート授業へ対応するための必要な知見を提供することを目的とした。

体育経営管理 ポスター発表

[06 経-ポ-03]Unraveling the Current Issues in and Defining the Status of University Athletics in Japan: A Scoping Study

○Haruka Kasahara¹, Shinzo Yamada¹, Randeep Rakwal¹, Hirokazu Matsuo¹ (1.University of Tsukuba)

日本国内での大学スポーツ振興に対する関心は、ここ数年で急激に高まっている。大学スポーツの振興は、日本再興戦略2016においてスポーツ市場規模の開拓施策の一つとして掲げられ、更に第二期スポーツ基本計画において具体的な計画が示されたことで、国の政策の一つとして明確に位置づけられた。その中で、計画目標の一つである大学内におけるスポーツ分野を統括する部局の設置とアドミニストレーター配置の促進等が行われているものの、未だ大学スポーツは多くの課題を抱えている。それらの課題の多くは、大学の運動部活動が課外活動に位置付けられていることに起因するものとして大学スポーツに関する検討会議最終とりまとめにおいて言及されているが、現状として大学スポーツの課題を網羅的に把握した研究はみられず、実際にどのような課題が存在しているのかということについて共通の理解が得られていない。そこで本研究では、スコーピング研究を用いて、日本国内で発表された研究論文や紀要などの文献を包括的にレビューすることによって、現在日本で議論されている日本の大学スポーツにおける課題を特定し、網羅的に把握することを目的として研究を行った。その結果、日本の大学スポーツにおける課題に焦点を当てた38件の研究を特定することができた。頻度分析の結果では、査読付きジャーナルに掲載された研究はわずか2件に留まったものの、その文献数は近年上昇傾向にあることが分かった。また、テーマ分析の結果、研究から特定された課題は10項目に分類できることが明らかとなった。その上で、テーマ分析で分類された課題に基づき、各々の因果関係や属性を示すフレームワークを作成した。さらに、10項目の課題のうち「大学における大学スポーツの定義」はその他の課題との関連が大きく、この課題に取り組むことがその他の課題の解決にも資する可能性があるという点で、特に重要な課題と考えられる。

体育経営管理 ポスター発表

[06 経-ポ-04]スポーツ参加者の種目に対する心理的なつながり

多次元的アプローチからの検討

○Hiroki Simozima¹ (1.Fukuoka university)

競技生活を終えたトップアスリートがメディアや自身の SNSを通し、当該種目に対し「恩返しをしたい」とコメントしている場面がしばしば見受けられるが、このような例からも、スポーツ参加者における種目への心理的な結びつきの強さと行動には様々な関係性が存在することが予想される。種目に対する心理的な結びつきは、スポーツ科学の研究領域において、points of attachment（愛着の対象）における「種目への愛着」（Robinson et al., 2004 ; trail et al., 2003）や「スポーツ・コミットメント」（Scanlan et al.,1993）といった概念が主に用いられてきた。もともと、愛着やコミットメントといった概念は社会心理学の分野で用いられてきた概念であり、これらの概念は組織論の研究分野における「組織コミットメント」や消費者行動研究の分野における「ブランドコミットメント」といった形で援用され、最近では、構成概念における多次元性に関する検討がしばしば行われるようになってきている（高尾、2013；相馬・清水、2016）。points of attachmentにおける種目への愛着やスポーツ・コミットメントの概念はいずれも1つの因子から構成されているが、スポーツ参加者の種目に対する心理的なつながりを多次元的に検討することで、スポーツ参加者の行動に関する様々な現象をより正確に理解することが可能となりえる。以上より、本研究ではスポーツ参加者における種目への心理的なつながりについて多次元的なアプローチから検討し、それらが及ぼす影響について検討することを目的とする。